

令和4年度 女性医師支援・ドクターバンク連携
関東甲信越・東京ブロック会議 次第

日 時：令和4年5月7日（土）

14時から17時

場 所：浦安ブライトンホテル東京ベイ

司会：千葉県医師会担当理事 大野京子

1. 開 会

2. 挨拶

日本医師会 副会長 今村 聡

千葉県医師会 副会長 金江 清

3. 出席者紹介

4. 報 告

日本医師会女性医師支援センターからの報告事項について

日本医師会 常任理事 神村 裕子

5. 議 題

「医師のキャリア支援と医師確保の取り組み」

（ワールドカフェスタイルでの検討）

※医師会としてどんな支援ができるのか、具体的な支援案の検討

① 世代別のキャリア支援の検討（勤務する医師側への支援）

② 医師確保支援の検討（求人医療機関側への支援）

— 休 憩 —

6. 総括・質疑応答

7. 次年度の開催県について

8. 閉 会

5. 議 題

「医師のキャリア支援と医師確保の取り組み」

（ワールドカフェスタイルでの検討）

※医師会としてどんな支援ができるのか、具体的な支援案の検討

① 世代別のキャリア支援の検討（勤務する医師側への支援）

〔茨城県医師会〕

- ・ 初期研修医、専攻医向けの支援

他病院にいる同期の臨床経験や研修内容、今後のキャリア形成の参考として、対象医達が集まり意見交換をする場を設ける。

- ・ 子育て世代向けの支援

キャリア形成に大事な時期であり、アルバイト就労の他、フルタイムで働ける後方支援の充実と同じ立場の人との情報共有ができる環境を構築する（例：保育施設の保育時間や学童保育などの充実、家庭内雑事の支援など）。

・ 定年退職期の医師においては現在の医師不足下では、勤務の延長や再就職などに困った話はほとんどないを考える。

・ 専門医取得基準について、各学会によって女性医師の実状に合わせた、かつ基準に十分に達するように改訂を行うことを提言する。

〔栃木県医師会〕

学生・研修医の世代へのコミットが重要。

日本医師会の活動をよく知らないまま勤務医となるケースが多い。

各地区・都道府県医師会が地元の大学で1コマ以上の講義を持ち、医師会についてインフォメーションを提供する。この時点でキャリアを積む一つの手段として医師会の支援があることを知ってもらう。

子育て世代もしくは介護にかかわる世代では、短時間常勤などの制度を持つ病院がもっと増えるとよい。

〔群馬県医師会〕

<子育て世代>

- ・ 現在、群馬県医師会で行っている「保育サポーターバンク」事業を周知し、利

用を促進するとともに、保育サポーターを募集して人数を増やす、研修会を開催する、など事業の更なる充実を図っていきます。

※参考：保育サポーターバンク 登録医師数…226人（R4.3.31現在）

令和3年度総利用時間…20,906時間

・女性医師支援サポートブック（仮）を作成し、子育て医師等に対して県内病院の子育て・介護中の勤務に関する制度や院内保育などの施設等を周知するとともに、子育て医師等が働きやすい勤務環境の推進を図っていきます。

・臨床研修病院等での勤務で、仕事と子育てとの両立に負担が大きいと感じる先生には、「群馬県慢性期医療協会」が、比較的両立しやすい慢性期病院を紹介できるとのことですので、情報の共有を検討していきたいと思います。

※群馬県慢性期医療協会：日本慢性期医療協会の群馬県支部として、慢性期医療の質の向上や発展を目指すことで、県内の医療体制の充実を図っています。

・群馬県ドクターバンク事業の周知を図ることを検討していきます。

<子育て世代・子育て一段落世代>

・県医師会女性医師支援委員会では、子育て医師等の復職を支援するため、「群馬大学医学部附属病院 男女協働キャリア支援部門」の取組を、保育サポーターバンク等を通じて子育て医師等に周知できるように、情報共有や連携していくことを検討したいと思います。

※群馬大学医学部附属病院 男女協働キャリア支援部門の取組：医師の復職を支援する医師ワーク支援プログラムを提供し、臨床現場を離れた医師が、通常業務に復帰するまでの再教育支援、また、継続的な高度医療の知識・技術の習得を可能とするよう、各自の意向に沿った支援を行っています。

・群馬県ドクターバンク事業と群馬県慢性期医療協会の周知を図ることを検討していきます。

<60歳以上>

・群馬県ドクターバンク事業と群馬県慢性期医療協会の周知を図ることを検討していきます。

〔埼玉県医師会〕

埼玉県医師会は県とタッグを組んで平成 25 年に埼玉県総合医局機構を創立しました。「埼玉県女性医師支援センター」は埼玉県総合医局機構の医師支援の一環として、女性医師支援を目的に埼玉県から委託を受け、埼玉県医師会が運営しています。

① 世代別のキャリア支援の検討（勤務する医師側への支援）

妊娠・出産・子育て世代への支援は柔軟な働き方と保育園等の確保だと考えます。女性医師支援センターでは、病院訪問で院内保育所の有無や勤務している女医の勤務状況等を調べて、広報に載せるなど、情報発信をしています。また、就業や復職などの相談を受け、本人の希望に添った病院等へ紹介するなど行っています。

子育てを終わった方の就労再開については、大学病院等、指導出来る医師のいる病院への紹介やクリニックへの就労などを進めています。

〔東京都医師会〕

東京には、13 大学の医学部があり、それぞれに医師会が設置されております。

（1 大学のみ地域医師会を通じて連携をしています。）

各大学医師会において、さまざまな支援策を行っているかと存じます。

本会では、次世代医師・女性医師支援委員会を設置しており、各大学医師会がどのような支援の取り組みをしているかアンケートを実施する予定です。

〔神奈川県医師会〕

・本県医師会では医師バンクを設置していないため、子育て世代等の女性医師の就業支援については、日医の医師バンクやかながわドクターバンク（県庁）等を県医師会のホームページで紹介している。子育てに関しては、神奈川県内の保育可能なベビーシッターや家事代行を紹介する情報を県医師会ホームページに掲載している。

・本会では令和4年4月より「女性医師等支援委員会」を設置し、委員会の構成員には、女性勤務医や女性医師の働きやすい環境を整備している女性病院長や県下4大学から女性勤務医に参画していただき、現場で求められている課題について検討し、医師会としてどのような支援ができるのか、今後検討する予定である。

〔新潟県医師会〕

本会では、県からの委託を受け、女性医師総合支援センターとして、子育て・復職・キャリア形成等の総合相談対応を行っている。令和2年に「子育て世代医師の就業・キャリア形成支援等に関するアンケート調査」を県内病院、大学医学部に勤務する20～50代の男女医師を対象に実施した。調査結果をもとに、ベビーシッター、託児所等のサービス拡大に向けて、ベビーシッター会社と協議を行う予定である。また県内医療機関の子育て支援制度に関する情報を集めた「女性医師のためのサポートブック」を令和元年に発行した。更新を機会に今後、電子媒体として内容の見直しを行う予定である。

キャリア形成に関しては、若い医師の多い新潟大学医学部との連携強化のために医学部に分室を設置し、キャリア支援に関する講演会や研修会、電話相談等を行っている。大学が中心になって、各診療科持ち回りでオンラインカフェを開催し、各教室の取り組みや医師のキャリア形成に関する講演（経験談）、意見交換などを行っている。またカフェの内容を中心にまとめた小冊子を発行し、教室を超えて情報を共有することにより、各医師が自分のキャリア形成の参考にするとともに、医学部全体の支援体制の改善が期待される。

〔山梨県医師会〕

毎月子供の行事に併せた出勤を希望できるようにする・時短出勤・当直の免除・または当直だけなど柔軟な働き方ができるように勤務先に働きかけ、医師にはそれを紹介していく

子育て一段落世代には「再研修・再就労」が出来るように勤務先に働きかけ医師にはそれを積極的に利用してもらうように紹介していく

60歳以上の方にも同様であるがさらに行政の仕事・施設の仕事などを紹介していく場所が必要

例えば看護師募集の場合では看護協会に求人情報を提出するので医師会でも求人をもとめられると良いのかも知れない

〔長野県医師会〕

・臨床研修医・若手医師のキャリア支援

結婚・出産後の後も働き続けられるよう、キャリア形成のロールモデルとなる講師によるセミナー・意見交換会の実施

- 子育て世代のキャリア支援
Webによる自宅参加可能な講演会の開催
研修会会場に託児室の設置
ベビーシッター利用料の補助
産休育休により、臨床研修を離れた医師のための復職支援
ドクターバンクを活用した、女性医師等に対する短時間勤務等で柔軟な働き方を可能とする医療機関の紹介
- 現役世代のキャリア支援
ワークライフバランスの推進や職場の勤務環境改善に対する支援を実施
- 定年後のキャリア支援
ドクターバンクを利用した、定年後の移住(U・Iターン)による就業のあっせん、短時間勤務等が可能な医療機関の紹介

〔千葉県医師会〕

(学生・研修医)

大学・研修病院などは、「自分の施設で働いてくれる医師」のサポートには積極的
と考えるが、そのルートから外れる医師は、サポートを受けにくい現実がある。
医師会としては、「どんな施設で働くにせよ、医師という資格を生かして働く人を
増やす」という視点で支援を検討したい。

- 女性医師も男性医師も、世間から必要とされている、仕事の質としては同等であることの啓蒙活動。
- 女性医師の配偶者は同業者が多いことから、男性医師に対する家庭内業務の均等分担の意識づくり。
- 「初期研修だけでも終わらせよう」「短時間、週1でもよいので働き続けよう」という、意識作り。
- 女性医師バンクなど、サポート組織があることの情報提供を、大学の同窓会組織等を通じて行う。
- 転居等により、途中で研修が切れそうになっても、日医などの女性医師バンクなどを通じて、転居先で研修施設探しのサポートを受けられるような、全国組織の構築。

(子育て世代)

研修を終了していても、経験を積めていない・ブランクが長いなど、再就職を躊躇したり、なかなか就労先を見つけられない現実があると思われる。

・ブランクを短くするためや、スキルを維持するための時短勤務・非常勤勤務の積極的紹介

・地区の病院と協同して、研修に準ずる短期のプログラムの設置

(定年世代)

病院勤務を定年になった後も、非常勤の外来勤務、施設の管理者等の再就職を求める声は多いと考える。外来はともかく、施設管理は特殊性もあり、求職者が勤務開始前に、勤務内容について勤務先とすり合わせられるような機会が必要と考える。

「医師のキャリア支援と医師確保の取り組み」

(ワールドカフェスタイルでの検討)

※医師会としてどんな支援ができるのか、具体的な支援案の検討

② 医師確保支援の検討（求人医療機関側への支援）

〔茨城県医師会〕

- 県や医師会が設置するいわゆるドクターバンクや地域医療連携の効果が見えてこないことに加えて、どの程度周知・利用されているのか、また実際の病院の状況も不透明である。県や地元大学との連携など、強化をするにはどうすべきかの議論が必要でそのためにはまず実態と実績の調査が必要である。
- 医師の退職時には都道府県レベルで必ずドクターバンクに登録を義務付けし、全ての医療機関を連携する体制の整備が必要である。その上で、休職期間に応じた研修が行えることが望まれる。

〔栃木県医師会〕

医療機関としてはとにかく無料であるというメリットは非常に大きい。

また、医師会のある程度の保証があることで信頼できる人材を確保するという面をもっとアピールしたらどうか。

特に若い世代はオンラインで情報収集を行うため、医療機関のHP から直接医師会人材バンクへのリンクを貼ってもらうなど、工夫したらどうか。

〔群馬県医師会〕

- 県内医療機関に、子育て世代の医師に「群馬県医師会保育サポーターバンク」を紹介してもらうことにより、子育て世代の離職を防ぎ、県内の医師確保につながるということが可能だと考えます。
- 群馬県（医務課）ではドクターバンク事業を行っているのですが、民間の人材紹介会社等の方が優れているという考えのため、あまり注力していません。ただ、紹介会社にお金を払って紹介してもらうのではなく、無料もしくは格安で利用できるシステムを求める声もありますので、県内の需要を調べる必要があると考えます。

〔埼玉県医師会〕

埼玉県内で就職・復職を希望する医師に登録して戴き、また求人希望の医療機関にも登録して戴き、双方の希望条件が合えばマッチング成立となります。また医療機関の現場で指導を行う事が出来るベテラン指導医（定年で病院・大学病院を退職した医師など）を、指導医の受け入れを希望する医療機関への紹介も行っています。

〔東京都医師会〕

上記（①）同様に各大学医師会にアンケートを実施する予定です。

〔神奈川県医師会〕

・本県では、県庁に医師バンクを開設しているが、就業斡旋はしておらず、求職者自ら求人募集を行っている医療機関に問い合わせる形式をとっている。

そのため、処遇や勤務時間などの条件は予め公表されているが（賃金は直接医療機関で提示すると思われる。）就業成立の有無について把握できない状況であり、ミスマッチの要因等不明である。

・求職する医師は、個別に事情も異なるため、医療機関側で条件をどこまで許容することができるのか、医師会としては個別の事情に関与できないと思われる。

・現在、2024年度から制度が開始される医師の働き方改革の動向も見極めながら、その中で、子育て中の女性医師をどのように取り込んでいくのか、大きな課題であると思われる。

〔新潟県医師会〕

新潟県医師会では、平成10年3月よりドクターバンクとして、医師の求人、求職の斡旋事業を無料で行っている。求人医療機関の情報については、毎月県医師会報に掲載している。

転職の他、退職後や休職後に働きたい医師等、女性医師に特化したものではないが、幅広く募集をしている。

★令和3年度ドクターバンク状況

ドクターバンク（無料職業紹介所）

・ 求人 有効登録数 96件

(新規登録10件、取消14件)

- ・ 求職 有効登録数 22名 (内 女性7名)

(新規登録7名、取消10名)

- ・ 成立 4件

〔山梨県医師会〕

県のドクターバンクの充実と周知が大切

現状では山梨県では設置があっても知られていない状況

年間の利用者数もここ数年をみても利用者が毎年1件あるか無いかの状況で成立数も0件でありもっとアピールしていく必要がある

民間の求人派遣を通しての就職では手数料が年収の30%と高額であり雇用する側にとっての負担は大きい

〔長野県医師会〕

復職する女性医師支援に対し、医療現場への復帰・定着に必要な研修を実施す医療機関に対する支援

医療機関の勤務環境改善に向け勤務環境改善支援センターを活用し、育児中も働きやすい職場環境の整備を行う医療機関への補助

女性医師の働きやすい職場環境（女性医師専用当直室、シャワールーム、授乳室など）整備を行う医療機関への補助

院内保育所だけでなく、医療機関において女性医師が勤務を続けられるようにベビーシッター派遣会社と契約を行った場合の補助

〔千葉県医師会〕

求職者側からは、就労先というだけでなく、再研修的な要素を求められることが多い。また、新しいスキル獲得の機会があることも、求職者の就労のモチベーションにつながり、求人者を増やせると考える。

求人にこたえてくれる医師を増やすだけでなく、その医師が定着するような仕組みづくりが必要。

- ・ 再就職にあたっての研修に準ずる短期プログラムの開発
- ・ 上記プログラムを持ち、それを行ってくれる医療機関への経済的サポート
- ・ 上記プログラムを受けている期間の医師雇用にあたっての、その医師への給与補助

- 上記プログラムを受けた医師が、その医療機関で一定期間就業することのルール作り
- 子育て世代は、子供の急な発病で余儀なく欠勤する可能性が高いので、院内病児保育施設構築への補助

以上は、地域の医師を増やすことにもつながるので、行政とも協働できれば良いと考える。

